



AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association

フレンド会報34号

〒102-0074
東京都千代田区九段南2-3-22
アーバンセカンドビル3F
TEL:03-6265-6490
FAX:03-6265-6491



2022年5月25日 発行

AEFAの3層構造理念



現地の変化を見逃さずに寄り添う

マレーシア CSO 校と自由学園初等部の生徒たちがオンラインで顔合わせ
ライフスキルを高める Child Education プログラム



現地の変化を見逃さずに寄り添う

ベトナムの学校建設プロジェクト、現地事情の変化と AEFA の動き、そしてこれから

私たちは、わずか数カ月の間に世界が大きく変わるのを目の当たりにしました。この分断の時代に、私たちAEFAスタッフの胸にあるのは「私たちは私たちの力で世界をつないでいく。」という強い思いです。

アジアの少数民族を対象としたAEFAの学校建設や教育支援プロジェクトには、教育の機会にまで分断があってはならない、すべての子どもたちのために未来の選択肢を広げたい、という願いがあります。

より広い世界を知る。情報に踊らされず真実を見極める目を育てる。違う視点から物事を見る想像力を身につける。教育を通じてこれらの知識や自分で考える力を得た子どもたちは、互いの理解と思いやりによって手をつなぎあう明日へと道を拓いていくのではないのでしょうか。私たちはAEFAの活動にこれまで以上に大きな意義を感じています。

一方、コロナウィルス感染症拡大防止を目的とした各種規制によって、私たちの活動の一部は制限されています。AEFAのプロジェクト自体には大きな影響がないものの、AEFAスタッフに

よる現地視察などは実施できない状態が続いています。

このような状況において現地のニーズに適切に応える支援を企画・実施するために、現地NGOの報告やニュース媒体を通じて情報収集を行い、現地事情に詳しい方々からも助けをいただいて、支援地域の最新状況を把握し、そこにある変化や課題を読み取る努力を続けています。

支援地域においてはさまざまな変化が起きています。ベトナムでは、同国の政府方針の転換を機に支援ニーズが大きく変わりつつあります。

AEFAは山岳少数民族のための分校建設を数多く手がけてきており、粗末で老朽化した校舎や不衛生な環境の改善が主な支援内容でした。2019年にAEFAはベトナムのイエンバイ省を訪れ、河川、峡谷を挟んだ急こう配の山岳地に散在する少数民族の居住地域を視察しています。そこで私たちが目にしたのは、トタンと板で建築された簡素な小学校分校の校舎、激しく老朽化した教室、古くて不衛生なトイレ。飲料水も得られない、教室もトイレも数が足りず一部の子どもたちは遠方の別の分校



写真：左上）ベトナム北部イエンバイ省の学校 左下・右上）分校（旧校舎） 右下）本校 右上）ブルーシートを壁に貼って（旧校舎）

に通わざるを得ない、そんな教育環境でした。AEFAはこのイエンバイ省の山岳地を支援強化地域と定め、強化企画の第一号として小学校分校に教室、教員室、井戸、トイレを新設するプロジェクトを立ち上げたのです。

支援者からの内諾も得ていよいよスタートしようという矢先に、地域の行政（人民委員会）が候補校である分校を本校に統合する方針を出したことが判明しました。同地域の教育訓練省は分校存続を主張する一方、人民委員会は本校への統合を強く主張し、結果的に候補校の本校への統合が決定、そのAEFAプロジェクトはキャンセルとなってしまいました。

僻地を中心に分校を建設することで初等教育の就学率を向上させてきたベトナム政府。

AEFAはこの分校整備の方針のもとで多くの分校を支援してきました。しかし、その方針が転換期を迎えたようです。インターネットで得られる情報から、現在ベトナムでは公的機関の再編成を進めており、教育分野では分校がターゲットになっていることがわかってきました。ベトナム首相が分校の統廃合を推

し進めるべきと発言していることもあり、さらにその動きが強まっていると思われます。イエンバイの分校統合を成功モデルとして他省にも展開する方針のようです。

分校を本校に統合することは、本校に設備投資を集中することによって教育の質の改善を図るという目的もあるようですが、一方で多くの懸念もあります。これまで分校に通っていた子どもたちは、遠方の本校に通うか、または、寄宿生活を送ることになります。本校がそこまで整備されるのか。長くなる通学路の安全は確保できるのか。さらに、学校が遠くなったり、寮に入らざるを得なくなったりすると、子どもたちが休暇後に学校に戻らなくなってしまうのではないかと。

近年の支援要求内容から、これらが単なる懸念ではなく実際の課題である可能性が伺われます。たとえば学校の教室ではなくキッチンと食堂の建設の要求です。ベトナムの小学校では午前と午後の授業の間に長い昼休みがあり、生徒たちは午前の授業が終わると帰宅し、昼食を食べて再び午後の授業のために登校します。学校と自宅の距離が離れていて昼食のために



写真：左上）整備後の寄宿舎 ベッドの上が居場所 左下）整備前の食堂 右上）配膳を担当する高学年児童 右下）ベトナム北部の寄宿舎。冬は寒い。

帰宅できない生徒が増えたため、給食が必要になり、キッチンと食堂を建設したいという要望が出てきたのです。AEFAの従来の支援規模を超える教室数の校舎や、寄宿舎、食堂、キッチンを備える学校建設の要望もあります。この傾向はイエンバイにとどまらず、トゥエンクアン省などでも顕在化しています。

ベトナムですべての分校が統廃合されるわけではありません。AEFAは今後も存続する分校の建設や修繕の支援を続けます。同時に、これまでのAEFAモデルとは異なるタイプの支援要求にも目を向け、その背景や重要性を探ることが重要だと考えています。

キャンセルとなったイエンバイの分校建設プロジェクトについては、代わりに、少数民族の住む地域の小学校の本校に分校を統合するための教室増設プロジェクトを支援者に再提案し、受け入れていただきました。分校を建設するのではなく本校に統合するという、当初のプランとは逆方向のプロジェクトを進めることに、AEFAとして戸惑いがなかったわけではありませんが、本校の教室不足を解消することはそこに通うことになる少数民族の子どもたちの教育環境を確保することにつながります。変化

する現地のニーズに寄り添う最適な方法、AEFAとしてできるベストな形を模索しながらの活動が続いています。

変化に対応することだけが私たちの活動方針ではありません。目指しているのは、AEFAのプロジェクトをきっかけに現地において変化が生まれ、それが現地の推進力となること。これまでもご紹介してきたレインボーライブラリー（図書館）プロジェクトがその好例です。2019年にベトナムのたった1校で始まったこのプロジェクトは、その後、現地の多くの学校から熱心な支援依頼を受けるプロジェクトとなりました。2020年以降、図書館建設や読書習慣啓蒙活動が実施された学校は19校にもおよび、現在も新たな図書館が建設中です。

世界の小さな一角における変化がひとすじの流れとなり、いくつもの流れが合流して、きらめく大河となっていく。私たちが思い描くのはそんな希望の形です。同じアジアの仲間として心と心をつなぎ、共に未来に向かうために。変化を見過ごさず、また、より良い変化を作っていくAEFAの取り組みは続きます。



写真：左）レインボーライブラリー 読み聞かせの時間 右）民族について学ぶ活動の時間

2021

2022年12月始めAEFA内に衝撃が走った。支援者に提案し、内諾を得たベトナムの少数民族が住む山岳地域の小学校分校建設のプロジェクトが、キャンセルとなる可能性があるという連絡が、現地NGOから入ったからである。11月中旬に支援者にプロジェクトを提案する前に、現地NGOには候補校が日本からの支援を必要としていることを確認していた。しかしながら、約2週間後、現地NGOが支援の内諾を受けて、候補校のある地域の教育訓練省に連絡したところ、地域の行政（人民委員会）が、その分校を本校に統合する方針を出したことが判明したのだった。AEFAは急遽現地NGOとズームミーティングで状況を確認したが、現地NGOも事態を十分に把握しきれていなかった。そこで急遽、現地NGOは地域の教育訓練省、人民委員会と打ち合わせを実施、教育訓練省は分校存続を主張していたが、人民委員会長が本校への統合を強く主張し、結果的に候補校の本校への統合が決定、そのプロジェクトはキャンセルとなった。

キャンセルされたプロジェクトの候補校の状況は、100名前後の少数民族の生徒が通学する小学校分校で、教室数が不足しており、5年生は遠く離れた他の分校へ通学、既存の教室はトタンと板で建築され老朽化、トイレも古くて不衛生で数が不足、飲料水も得られない状況だった。そこに「5教室、教員室、井戸、トイレを新設」することで、その分校の教育環境の抜本的な改善を行うことが望まれていた。ベトナムのプロジェクトの中でも、困難が多く担当者として思い入れが強いプロジェクトであっただけに突然のキャンセルに動揺したことは否めない。また、AEFAを信頼し、支援を決めてくださった支援者に申し訳ない気持ちで一杯になった。現地NGOも、突然の方針変更に対し驚くと同時に、政府の方針変更を申し訳ないと謝罪の言葉を繰り返していた。

一方で、分校の統合化、分校の本校への統合化に、懸念と疑

報告：田中 富美子

問を感じたことも否めない。2019年、今回キャンセルになった学校のあるイエンバイ省を視察、大規模な寄宿制の本校を視察したが、学校のインフラ整備が遅れていることを目の当たりにしたからである。

例えば、1校は、標高1500メートルにあり急峻な山を切り開いた斜面に階段状に建設された小中学校合わせて26クラス（8クラスが中学生）の学校。892名の生徒は、山岳地帯に散住する少数民族の出身で、自宅から毎日通学するのが困難であった。そのため、低学年の生徒も含めほぼ全員が、月曜日から金曜日までは学校に宿泊まりし学習していた。しかしながら、学校施設の整備は不完全で、レンガ造のしっかりした教室は8室のみで、残りは、トタンと木で作られた仮設校舎だった。別の学校では、似たような教室の状況に加え、寄宿舎も不足しており、トタンと板の仮設の建物内に生徒たちのベッドが置かれている状況だった。これらの学校が支援を必要とする教室数は10教室を超え、加えて、寄宿舎建設、食堂、キッチンの整備など、規模と種類でAEFAが経験したことがないものだった。また、まだ幼い1年生、2年生が親元を離れ集団生活を送っている様子は、特に、少数民族の子どもたちは体格も小さく、1、2年生でも日本の幼稚園児より幼くみえて心が痛むものがあった。同行した現地NGO担当者も「こんな小さい子どもたちを親元から離すなんて」と心を痛めていた。

今回の突然のキャンセルにより、ベトナムの少数民族の子どもたちを取り巻く教育環境が確実に変化しているのを実感した。一方で、必ずしもその変化が少数民族の子どもたちにとって良い状況を招いているとは限らないと感じている。

ベトナムのプロジェクト担当者として、現地の変化を見逃さず寄り添うにはどうしたら良いか 試行錯誤は続く。



学校建設プロジェクト

2022年4月現在



① カムリⅡ小学校



① カムリⅡ小学校 レインボーライブラリー



② クーマン分校



③ キャンドルライツライブラリー クアセツ校



④ チョイモット分校



⑤ ビンフー小学校



⑥ ラック28小学校



⑦ ウィーラヘラ小中学校



⑧ ポマウ分校



⑨ タップカイ分校



⑩ ニュウ中学校



⑪ カワンティサプラ・マハー小中学校

国名	学校名 支援者（敬称略） / 建設スベック	ひとこと
完成	ベトナム カムリII小学校 及びレインボーライブラリー 株式会社ニッコクトラスト	2つの分校を統合し、新しい学校用地に移転、新たに小学校を建設。隣接した中高校と合わせて、地域の総合的な教育の中心校となります。また、ニッコクトラスト社の支援がきっかけとなり、政府からも新校舎が追加建設。今年9月に満を持して開校となります。写真①
	クーマン分校 一般社団法人 ゼブラ社会貢献支援協会	タインホア省のプロジェクト。7クラス、154名が学んでいます。教室は3教室しかないので、近隣の複数の村のカルチャーハウスを借りて授業を行っています。4教室新校舎と、トイレ棟が新築されました。写真②
	ラオス キャンドルライツライブラリー クアセット校 WANG基金 藤原和博	小中一貫校に図書館を設置、読書啓蒙活動を行います。「教育は生命の灯」との思いから、キャンドルライツライブラリーと名づけられ、ベトナムのレインボーライブラリーを参考にしたデザインです。写真③
建設中	ベトナム チョイモット分校 横浜幸銀信用組合	タインホア省のプロジェクト。狭い3教室の校舎しかない為、高学年4-5年生は川を渡り、5km離れた別の分校に通っています。4教室校舎とトイレ棟を新設し、1-5年生まで全員が健康的で安全に学べるようにします。写真④
	ビンフー小学校 アジアの子どもたちに学校をつくる議員の会	山間部にあり、湿気が多く冬は大変冷え込む地域。全9教室のうち1室は竹と木材の仮設教室。鉄筋コンクリート造の5室（2007年築）も湿気と寒さで結露しカビが生えたり、雨の日は水漏れが。現在の小学校は幼稚園敷地にあり、いずれ幼稚園へ返却することになっています。地域の7か村の児童が学ぶ中心基幹校となるべく、中学校用地へ移転。新たに小学校新校舎を建設します。写真⑤
	レインボーライブラリー クアントウルン小 医療法人社団 ALBA	小学校にレインボーライブラリーを建設、1年間の読書習慣啓蒙活動を実施します。歯科医の本業を通じての社会貢献をとのご支援者の意思を実現すべく検討中です。
	ラオス フアイラ小学校 増設 エルセラーン1%クラブ	2014年からAEFAプロジェクトでフアイラ小学校・中学校の新設、地域の分校群をサポート。校舎増設により、地域の基幹校として、更に教育が充実します。
	ラック28小学校 一家恵理	AEFA初となる ラオス東北部シエンクアン県プロジェクトです。新たな学校用地を地域が準備。村人がグループにわかれ、当番制で整地や基礎埋め戻しも学校建設作業をお手伝い。写真⑥
	イルコーウィタ小学校 課外活動用小学校舎 (株)やすらぎの部屋	2021年にAEFAのプロジェクトで校舎の一棟を改修した学校です。先生の熱意と行動力が実を結び、今回は課外活動用の小学校舎を新設することになりました。子どもたちの将来の選択肢や可能性を広げるため、英語を集中して学んだり、自主的なクラブ活動を行ったりするために使われます*。
	スリランカ ウィーラヘラ小中学校 理科室と保健室の整備 熱中小学校江丹別分校 小学校をつくらうボランティア部	海に近い地域特有の砂塵が室内に入り込み、学習環境に悪影響を及ぼしています。特に理科室で実験器具やコンピュータを安心して使用することができません。理科室を改修して砂塵が入り込まないように整備し、室内をパーティションで仕切って急患の保健室も併設します*。写真⑦
	*スリランカでは深刻な経済危機による物資不足等の影響で着工に遅れが生じています。	
計画	ベトナム レインボーライブラリー ニンライ小/フックウン小/フックウン小中/バンドン分校	小学校にレインボーライブラリーを建設、1年間の読書習慣啓蒙活動を実施します。読書を通じて、子どもたちは、視野を広げ、将来の夢を育み、可能性を広げることができます。
	ボマウ分校 (8教室修繕+トイレ+浄水装置)	ハノイ市から西北に320kmのソララ省にある学校。ソララ省は全国で3番目に貧困世帯数が多く、ベトナムの中でも経済的困窮度の高い地域。学校は山の斜面にあり、校舎を徹底修繕するプロジェクトです。写真⑧
	チョクチョン分校 (3室+トイレ+井戸)	ハノイ市から西北に154kmのイエンバイ省にある学校。イエンバイ省は河川、峡谷を挟んだ急こう配の山岳地帯を持つ省で山間部には少数民族が居住する地域が散在します。教室数が不足する学校に2教室を新設、トタン造の仮設教員室と老朽化したトイレを建て替えるプロジェクトです。
	タップカイ分校 (3室+トイレ+井戸)	チョクチョン分校と同じくイエンバイ省にある学校。教室数が不足し教員室も無い学校に、2教室と教員室を新設、老朽化したトイレを建て替えるプロジェクトです。写真⑨
	リンフー小学校 (台所+食堂+寄宿舎+トイレ)	学校から遠隔地に住む55名の生徒が、週日は学校に寄宿している学校です。地域の拠点校として分校を統合するため、さらに遠隔地に住む生徒が増加、寄宿生が増加しますが、給食のための台所、食堂の新設、寄宿舎増設の政府予算はありません。トタンの仮設食堂と台所の建て替え、寄宿舎増設、寄宿舎用トイレの増設をするプロジェクトです。
	ラオス ニュー中学校 (5室+机椅子黒板+トイレ+水タンク)	もともと小学校だった建物を、中学校として活用しています。2棟ある校舎のうち1棟は壁も床も無く、雨漏りのする古い仮設校舎です。強風や大雨の後には、村人たちが修理をしながら使っています。写真⑩
	マイバンマセル中高校 集会室兼図書室 (ファイルシ幼稚園・ゲンタワン小学校)	AEFAプロジェクトで校舎2棟・トイレ2棟・寮・スポーツコート・水設備を整備、地域の中心基幹校かつ郡のモデル校となっています。更なる活動と学びの充実の為、集会室兼図書室を計画しています。 (ラオスにおける物価高騰と変動が著しいため、この2校については状況が落ち着いてから計画を見直します)
	スリランカ マウサキヤル第1タミル小中学校 (2教室*2棟)	中部州の紅茶プランテーション内にある学校です。3つの農園に住むエステート・タミル人（イギリス統治時代に紅茶農園の労働者としてインド南部から連れてこられた人々の子孫）の子どもたちが勉強しています。教室数が不足している一部の児童生徒は外で授業を受けています。
	カワンティサブラ・マハー小中学校 (5教室)	中学生が使用している校舎の傷みがひどく、壁が崩れかけ、床がひび割れ、屋根は雨漏りしています。2年前の行政による視察で「倒壊の危険あり」と認定されましたが修理がなされず、先生、生徒たちは不安を抱えながら学校生活を送っています。写真⑪
	ホーリー・エンジェルズ女子学校 (3教室)	海沿いの美しい漁村にあるカソリック系の女子校。2004年のスマトラ島沖地震による大津波で倒壊した学校の代わりに、保護者が地域の教会に嘆願して建てられました。現在は高校生まで在籍していますが、教室が足りず、3教室の増設を希望しています。

会報33号で「計画」のベトナム ヴァンフー小学校・キエンティエット小学校は、行政による支援が決定(予定) となりました。
ラオス ナムサイター小学校は、現在、別のNGOが支援を検討中です。

コロナの間に実現できたこと・ベトナム ライフスキルを高める Child Education プログラム

コロナ禍が子どもに及ぼす影響を考えた時、特にベトナム山岳地域に住む少数民族の子どもたちにとって、休校期間中、交通事故や水難事故、児童虐待の危険が増加しました。事故を未然に防ぐこと、万一危険に遭遇した際にどう行動すればいいか教えるのは、両親や地域の大人の責任です。しかし、大人たちでさえも認識や知識が十分でないのが現状です。

そこで、生活の場と日常生活に潜む危険をコミュニティで顕在化・共有。子どもも自分で身を守るライフスキル(※)を高め、自ら安全な環境をつくりだすため「Child Educationプロジェクト」を実施しました。

①子どもの安全 怪我の予防 ②児童虐待防止 ③環境整備の3つから成る各トピックスのトレーニングでは、子どもを活動の中心に置き主体性をもって行動することが出来るよう、話を聞くだけでなく発言する時間を確保しました。また、子どもたちの絵画・演劇コンテストを実施しました。

〈成果〉

- 危険が潜む場所に、警告標識を掲示(3つの地域・28か所)
- 300冊のハンドブックを制作。学校(レインボーライブラリー)に配布
- 250枚のポスターや横断幕の制作・Facebookへの投稿(約6000人が閲覧)
- 「わたしの安全で幸せな世界」絵画・演劇コンテスト



写真：上) オリジナルキャラクターが大活躍のハンドブック
下) ベトナムの拳手 積極的に発言する児童たち



写真：上) 船着き場に設置された警告標識 下) 通学路を安全に

実際に起こった例からも、トレーニングが早速役立ったことがわかりました。

「昨年9月、我が校の女子児童がひっかかった洗濯物をとるために家の屋根に上り、誤って感電しました。雨が降っていたので、感電のショックは大きいものでした。しかし、訓練のおかげで、女子児童は助けを求めて叫ぶ方法を知っていました。両親はまた、訓練のおかげで、重傷にならないように氷で感電部位を冷やす応急処置ができました - Mrs. Nguyen Thi Thuy - ティエンボ小学校校長」

引き続き、体験談を集めて動画を制作。より多くの子どもが活動に参加できるよう、教員へのトレーニングを行います。

※ライフスキルとは日常生活に生じるさまざまな問題や要求に対して、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力(WHO:世界保健機関)

子どもたちの感想

「活動は楽しく面白かったです。学んだことを、友達にも教えてあげます」

Phan Dang Khoi, class 4A1, ティエンボ小学校
「教えてもらったたくさんの知識で、自分と家族を守りたいです。それから、私は水に溺れたときのことについて、もっと学びたいです」

Le Viet Hung, class 3A2, キエンティエット小学校

AEFA 初・リアルタイムでの学級交流！ マレーシア CSO 校と自由学園初等部の生徒たちが オンラインで顔合わせ

2022年2月、東京都の私立学校「自由学園初等部」4年生の英語の授業の時間に合わせて、マレーシアのセランゴール州にある「Chin Student Organization(CSO)」の同世代のクラスとビデオ通話でつなぎました。

CSOはミャンマー出身の少数民族の難民の子どもたちが通う民間学校です。自由学園とは、AEFAの出前授業をきっかけに、2020年からビデオレターや手作りカードの交換をおこなってきました。お互いのことを学ぶうちに、実際に会ってみたい！という声が高まり、双方の先生方のご尽力でオンライン交流授業が実現しました。

授業中に海外の学級とリアルタイムで交流するのは両校共に初めての試み。AEFAにとっても、その仲介役を果たすのは初の取り組みでした。挨拶から始まり、まずは自由学園の皆さんが英語で学校生活の紹介をした後、学園の体操を実演してくれました。続いて、CSOの皆さんが、先生のギター演奏に合わせて「We Are The World」を合唱しました。どちらの生徒たちも、相手の



写真：マレーシア CSO 校の生徒たち（左上）と画面越しに交流する自由学園の4年生（右上）

発表を見守りながら一緒に体を動かしたり、リズムを取ったりして、気持ちを通わせていた様子が印象的でした。発表後は自然に多くの子どもたちから手が挙がり、感想を述べたり、質問をし合ったりするうちに45分間の授業が終了しました。

画面越しではありましたが、別々の国に暮らす同世代の子どもたちが同じ時間を共有できたこと、一緒に笑い合えたことは、かけがえのない体験になったのではないかと思います。同席した AEFA スタッフたちも感動をもらいました。

おたより届きました

スリランカ

ワガワッタ・タミル小中学校のみなさんの作品



インド洋の大海原に浮かぶスリランカ（「光り輝く島」の意味）を背景に、日本とスリランカの国旗を掲げる若者たち。色鮮やかなこの水彩画は、西部州サモダラにあるワガワッタ・タミル小中学校の先生と生徒たちが力を合わせて描きました。校舎改修プロジェクトの支援者様への感謝の気持ちを込めて、大切に日本に届けられました。

4人の若者たちは、スリランカに暮らす4つのグループを表しているそうです。

- ・紫色の服の少年 — 仏教徒
- ・三つ編みの少女 — ヒンドゥー教徒
- ・白い帽子の少年 — イスラム教徒
- ・青色の服の少年 — キリスト教徒

人口の約7割を占めるシンハラ人のほとんどは仏教を信仰しています。次に多いのがインド南部にルーツを持つタミル人で、主にヒンドゥー教徒です。ほかに、スリランカ・ムスリムと呼ばれるイスラム教徒や、海岸沿いに多く暮らすキリスト教徒の人たちがいます。この学校のみなさんはタミル人でヒンドゥー教徒ですが、4つのグループが手を取り合って協力する姿を描いています。



写真：左) 工事中
下) ライブラリーの完成を待つ少年



竣工しました ラオス「キャンドルライツライブラリー」

ベトナム「レインボーライブラリー」が活発ですが、ラオスにもこのほど図書館がクアセツ小中学校に新設されました(WANG基金による支援)。

「本は教育の灯」との思いから、「キャンドルライツライブラリー」と名づけられています。

ラオスではどのような建物とするか？ 予算的な面も含めて検討されましたが、現地の強い希望により、ベトナムの図面を参考に自分たちで図面を引き直しました。屋根がついたとたん、急にラオス風の趣になりました。

ライブラリーでは2人の先生が司書として任命され、読書活動は小中校の児童生徒どちらも図書館を使いやすいように、両校の先生方が一緒になって計画準備しています。



カレンのすてき^② AEFA発 少数民族のくらし紹介

カレンの皆さんのすてきな手仕事は、織物や刺繍だけではなく、

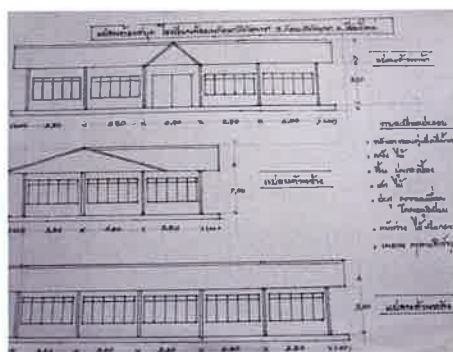
竹細工も繊細で美しく、かごなど生活用品だけでなくリゾートホテルのランプシェードなどにも使われています。

チェンマイ県ガラヤニワッタナ中学校

新校舎建設プロジェクト開始当時、校長先生が「完成イメージ図」を水彩で手描きしてくださいました。同校は寄宿学校で遠い村々からきた生徒も学んでおり、学校を「家庭」のように感じられるよう、カレンの意匠をとり入れたデザインにしたい・・・という希望でした。

その一方で「施工図」が無いことを不思議に思ったAEFAスタッフ。RTF(タイのパートナーNGOラックスタイ財団)に尋ねたところ「カレンの人たちに図面なんか必要ないよ」とのお返事。カレンの人々は、自宅も皆で力を合わせて手作りします。その経験から、図面が無くてもいいというわけ。(とは言え手書きの図面を作って頂きました)

カレン伝統の技は素晴らしく、壁と天井は竹の美しい網代編。村で編んだものを学校に運びこみ設置されました。屋根(のケラバ)や手すりの部分にもカレン族の意匠が施され、とても美しい学校が完成しています。



3月4日 オンラインで「会員の集い」開催

コロナ禍により対面での集いができないため、初のオンラインによる会員の集いを実施しました。ご参加は15名と対面での集いに比べて少人数でしたが、ご出席者からAEFAの活動への多くの質問が寄せられ、理事長、事務局担当者がお答えしました。いくつかをご紹介します。



Q: 学校建設候補校はどのように決まるのでしょうか? いくつも要望が重なった場合の、審査の基準は何ですか?

A: 村からの陳情や地元行政の教育計画に基づいて、候補校情報がパートナー NGO を通して AEFA に届きます。AEFA が現地を訪問、今の校舎が大事に使われているか等を確認。先生の熱心さや地域の皆さんの人情や学校との協力関係など、現場感を体感して決めています。現地訪問が出来ない今は、パートナー NGO との連携をより密に行い、決めています。

Q: コロナ禍で現地訪問ができない状況が続いていますが、ご苦労されている点や、コロナ禍だからこそできた取り組みなどがあれば、教えてください。

A: やはり、現場感覚が得られないこと・お伝え出来ないことが一番苦労する点です。一方で、パートナー NGO とメール連絡を密に行うことで、むしろ明らかになる・表面化することもあります。
(*コロナ禍だからこそできた取り組みについては、P8 Child Education ご参照)

Q: 会報 P.7には各国学校の完成、建設中、計画中心が示されていますが、3 か国のバランスは意識的にとるのでしょうか?

A: はい。リストに収まりきれないほど候補校はありますが、ベトナム・ラオス・スリランカに偏りが大きく出ないようにしています。

今年よりオンラインによる交流会やイベントを定期的実施します。

ぜひご参加ください。

基本的に毎月第一土曜日 15時~16時の開催を予定。FacebookやInstagramでも告知します。

リポート Why AEFA?

坪井 未来子 → → →

浅田 一憲

株式会社ハウディ取締役社長
(前) 熱中小学校江丹別分校校長

医学博士・メディアデザイン学博士の2つの博士号を持つ研究者・経営者。通信・暗号・医療分野に造詣が深い。起業家として、1997年に情報セキュリティのスタートアップ、株式会社オープンループを創業し、代表取締役就任。2001年に同社を上場に導いた。社会活動として「色のシミュレータ」「明るく大きく」等の視覚・色覚の補助アプリ群を開発し無償で提供。世界で140万人超に使用されている。



谷川さんに初めてお会いしたのは、共通の友人の橋川幸夫さんの忘年会の席でした。立派な人がいるなどと思って最初は話しかけるのもちょっと緊張したものです。その数年後に、私は小さな分校のドナーをさせてもらい、本当に学校ができて、その開校式への出席のためにベトナムを訪れました。多くの生徒や先生や保護者の皆さんに何度もありがとうと言われ、心尽しのおもてなしを受けました。その時の子どもたちの笑顔は今でも忘れません。

その後、大人が行く社会塾「熱中小学校江丹別分校」の授業の一環として谷川さんをお呼びし、AEFAの活動を話してもらいました。授業に感動した生徒たちは、自分たちもドナーになろうと決意して「小学校を作ろうボランティア部」を設立。ただ人から寄付を集めるのではなく自らが活動して稼ごうと考え、チャリティコンサートを開催したり、カレンダーを作って販売したり、ワインのコルク栓を活用したコルクアートを制作販売してコツコツと資金を稼ぎ、とうとう去年9月に小学校を、今年3月にはレインボーライブラリーを作ることができたのです。

この活動は子どもたちのために始めたことですが、実は私たちこそが多くを得ました。力を合わせ誰かのために頑張る、皆で困難を乗り越えていく。そんなボランティア活動の過程で、一生の仲間ができ、多くの喜びと笑顔が生まれました。そして子どもたちのうれしそうなお顔を見て全てが報われる。谷川さんのお母様がおっしゃった「不思議な魔法の香水」、それが確かに私たちに降りかかったのです。

次のバトン: 岩品雅子さん(株式会社アイコンズ 主任コンサルタント・元JICA専門家)

- 1月11日 スリランカ ダヤシリ氏、マニーシャ氏とZoom打ち合わせ。新規候補校について(谷川、金子、服部)
- 1月12日 医療法人社団ALBA 訪問。ベトナム学校・図書館候補校を提案。クアントゥン小学校図書館支援が決定。(田中、金子)
- 1月14日 トレノケート株式会社 訪問。ラオス事業報告。(金子)
- 1月25日 ご支援者とのAEFAオンラインの集い(亀井)
- 1月27日 五味様、ラビンドラ様 来所。スリランカ現地情報交換
- 2月1日 AEFAフレンド会報33号発行
- 2月4日 AEFA関西支部とのZoom打合せ
- 2月7日 AEFA理事会・2021年度事業報告・決算、2022年度予算・事業計画承認
- 2月15日 樋口様 訪問。スリランカの改修候補校を提案(谷川、溝辺、服部)
- 2月16日 長野市大岡小学校Zoom出前授業、「大根基金」の贈呈式(金子)
- 2月21日 マレーシア CSOと自由学園初等部4年生とのオンライン交流授業(服部)
- 2月22日 横浜幸銀信用組合 訪問。ベトナム・ラオス 学校建設候補校を提案。ベトナム チョイモット分校支援が決定。(田中、金子)
- 2月22日 ご支援者とのAEFAオンラインの集い(亀井)
- 2月24日 港区赤羽小学校2年生とZoom出前授業 (金子)
- 2月25日 AEFA総会をZoomにて開催。2021年度事業報告・決算、2022年度予算・事業計画が承認された。
- 3月5日 東京都立荒川商業高等学校閉校記念の会 (谷川、金子)
- 3月18日 クック様 訪問。スリランカの改修候補校を提案 (服部)
- 3月12、19日 エルセラン社フェスティバルにて、ベトナム・スリランカの4校の学校・図書館の開校・開所式が開催された。
- 3月12日 スリランカ イルコウウィタ小学校、ベトナム ドントー2小学校図書館
- 3月19日 ベトナム フックニン小学校図書館、ドントー小学校図書館(谷川、菊岡)
- 3月18日 株式会社ニッコクトラストとZoomにて打合せ(田中、金子)
- 3月23日 アジアの子どもたちに学校をつくる議員の会 総会にてベトナム ビンフー小学校支援が決定。理事長 谷川が学校説明を行った。
- 3月25日 国際協力NGO「風の会」とラオスプロジェクトについてZoom打合せ(田中、金子)
- 3月30日 ㈱やすらぎの部屋とZoomにて打合せ。スリランカ イルコウウィタ小学校課外活動用小学校舎支援が決定。
- 4月1日 熱中小学校江丹別分校 小学校をつくらうボランティア部より、三谷様が来所。スリランカウィーラヘラ小中学校理科室と保健室の整備プロジェクト支援が決定。
- 4月2日 AEFAオンライン交流会をZoomにて開催。(TVA、VYSA共催)
- 4月6日 岩井雅子様(株式会社アイコンズ 主任コンサルタント。元JICA専門家)来所
- 4月8日 株式会社翌檜 訪問、ベトナム奨学金について報告。(谷川、金子)
- 4月19日 顧問 榎先生来所、5月の講演会打合せ
- 4月22日 ベトナム ティエンボ小学校、タンタイン1小学校のレインボーライブラリー 1年間の読書習慣啓蒙活動終了式をオンラインで開催。それぞれのご支援者と子どもたちとの交流を行った。
- 4月22日 株式会社東京黒板製作所 土佐様・斉藤様、松原様来所。

仲間がいるから

Tanikawa's Notebook 理事長・谷川洋



AEFA は会員や支援者(ドナー)の皆様に、賛助するだけではなくプロジェクトの“パートナー”として参画意識を持っていただけるよう、願っています。

ドナーの皆様には個別具体的にプロジェクトの進捗や成果をご報告。子どもたちが元気に学ぶ姿に、自らの支援の手触り感を実感したり共感したり、共に喜びを分かち合い、時には感動の嬉し涙を流してください。皆様の笑顔や涙を拝見するとき、私は、母から受け継いだ“魔法の香水”をひしひしと感じています。相手のために無私の心で振りかければ振りかけるほど、自分自身にも降りかかる、あたたかな思い。それこそが不思議な「魔法の香水」なのです。

これまでの歩みを振り返るとき、各国のパートナー NGO、現地行政役人、村人、先生方。プロボノやボランティアとして AEFA 事務局を



ラオス 村人たちの手作りの校舎前で

支えて下さる皆様。私たちが事業を推進できるのは、それぞれの場所です。それぞれに参画している方々あってこそ。

学校建設327校、図書館 20 館(2021 年度まで)をつくりだしてきた多くの「仲間」の存在に、改めて心からの感謝を捧げたい。

夢を語ったり新たな課題にチャレンジしたり・・・「仲間」たちとの時間が待ち遠しい。

個人と非営利団体を繋ぐプラットフォームサービス
Syncable (シンカブル) に登録しました



Syncable

<https://syncable.biz/>

Q 「アジア教育友好協会」で検索

当サイト経由で AEFA 会費のカード決済ができます

AEFA Web & SNS

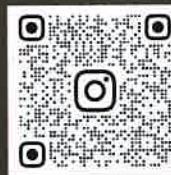
Web Site



Facebook



Instagram



私たちは各国のパートナー NGO と
手を携えて活動しています。

ベトナム: Research & Communication Centre for Sustainable Development (CSD)
Vietnam Assistance for the Handicapped (VNAH)
Saigon Children's Charity (SCC)

ラオス: Association for Community Development (ACD)

タイ: Raks Thai Foundation (CARE Thailand)

スリランカ: Rotary Club of Colombo (RCC)

